

# 立憲民主党 野田はるみさんのプロフィール

● 1958年東京都葛飾区に生まれる

東京都立葛飾野高校卒業、文化服装学院卒業

● (株)メルローズなど服飾ブランドにてデザイナー・マネージャーを務める

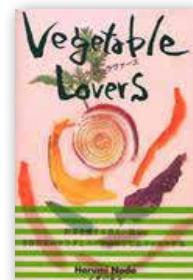
● 世界を旅し、環境問題や貧困問題への意識が高まり独立「食からはじまるエコライフ」をコンセプトに、代官山にコミュニティーカフェECRUをオープン。精進料理のような地産地消・一物全体というマクロビオテイック食を提供し、レシピ本「ベジタブルラヴァーズ」としても出版されるエコライフをデザインする活動がメディア等でも多数取材される

その間、海外支援のフェアートレードや"持続可能な社会と平和"を理念とするNPO BeGoodCafe・服としあわせのシェアーチ'Changeなどの運営などにも携わる

● 2011年東北大震災においては、自ら支援プロジェクト「プレシャス」を立ち上げ、5年間現地入りをしながら活動。仮設暮らしの女性を中心に編み物を教え、作品作りなど自立へ向けたプロジェクトは文化出版より「東北の地から届いたハートフルなさき編み」として出版されています

● ブータンやコスタリカなど30ヶ国を旅する中で、今の日本社会の課題を強く意識する。生活に根差した市民や女性の視点を代弁できる県議の必要性を感じ、格差と貧困、不登校、環境保全などの問題に取り組むべき県政への挑戦を決意されました。

● 自然療法・ヨガ歴30年・マクロビオテイック初級。着物・陶芸・生け花・書など日本の伝統と美意識を愛し、横須賀の自然豊かな環境に魅せられ移住。現在はNPO BeGoodCafe理事を勤める



東北大震災支援プロジェクト「プレシャス」  
～手仕事が繋ぐ人と希望～  
人と地球に優しい支援を目指して（2011年～2016年）



震災後仮設での生活は皆さん孤独と不安の中の日々でした。まずは仮設でもできる編み物教室からスタートしました。その後は収入にもつながる製品作りへと。大雪の中、横須賀から車での道のりは厳しい時もありましたが、5年間の活動は私も元気をもらいました。今は皆さんそれぞれの生活ですが、他の地域ではまだ仮設暮らしの方もいる現実。1日も早く皆さんのが普通の生活を送れるよう県政へ求めたいです！



立憲民主党とは、  
日本に立憲主義を回復させ、  
互いの違いを認め合い、  
ともに支え合う社会を実現する政党です。

〈地域を立て直す〉

地域の基幹産業を守り、地域の多様な暮らしを支えます。

- ① 生活の現場から暮らしを立て直します
- ② 環境に優しいエネルギーの地産地消を推進し、地域活性化と雇用創出を図ります。
- ③ 個人の権利を尊重し、ともに支え合う社会を実現します

立憲民主党  
The Constitutional Democratic Party of Japan

RIKKEN MINSHU  
号外  
2019年3月発行号

立憲民主  
The Constitutional Democratic Press

# 野田はるみ

県政に女性の声を！

# 野田はるみさんの政治姿勢 3つのゼロからはじめます

## しがらみゼロ → 生活に根差した県政に

政治経験はありません。だからこそ、しがらみに染まっています。県政に新鮮な風を吹き込みます。

## 献金ゼロ → オープンでクリーンに

政治献金は一切いただきません。借りをつくるから何でもオープンにでき、クリーンに決断できます。

## 現職女性ゼロ → 女性の声を県政に

横須賀の県議は5人とも男性。しかもベテランばかり。庶民の生活感覚で、女性や弱い人の声を県に届けます。



## 「新しい豊かさ」の社会をデザインしたい

### 仕事と旅を通して見えた社会課題

昭和30年代人情味あふれる下町で育ち、経済成長の80年代をデザイナーとして物創りの愉しさを味わい、バブル崩壊後には国内不況・格差拡大といった社会構造の変化を仕事を通じて感じてきました。そしてこの間、折にふれて30カ国以上を旅した経験が、日本を振り返るきっかけとなりました。お金は無くとも心豊かな途上国の暮らし。実は知恵とテクノロジーの詰まったエコヴィレッジの暮らし。そこには今後の日本社会のヒントがつっていました。

### ビジネスを通して 「新しい豊かさ」の提案

1998年、独立。「もっと素敵なお社会と生き方」について共に考える「コミュニティ・カフェ」を代官山で運営してきました。その間、NGOフェアートレードでの慈善に甘えず本物として買って頂ける商品開発等

を通して、新しい価値を提供してきました。

### 還暦を機に、新しいフィールドで 地域に役立ちたい

その後、素晴らしい環境に魅了されて横須賀市へ移住。介護、オレオレ詐欺、没後の相続争いなどに次々と直面し、多くの女性が年齢と共に味わう現実を自ら体験しました。そして、世界や日本の問題に取り組んできた私が、より地域の生活に密着した課題に目を向けるようになりました。

60歳という節目に、「私の経験を活かして、多くの人が幸せになれる『新しい豊かさ』の社会をデザインしたい!」と強く思うようになったのです。引きこもりの子供を抱える友人や児童養護施設の運営の悩み、まつとうな働く場を求めるシングルマザー・障害者・シニアの方々の思いなど、それらを受け止めて、私は「しあわせをつくるローカルビジネス」を行政の立場から事業化したい。

# 野田はるみさんからの政策提案 ゆたかな横須賀をデザインします



### 誰もが 学べる社会

### 「まな・ビレッジ」計画

学校になじめない子どもたちの受け皿となるフリースクールは、公的支援がなく経営の厳しい学校も多いのが実情です。これらの多様な学校を「まな・ビレッジ」として認定し、県独自に助成します。

### 県独自の 無利子の奨学金を

奨学金という名の「学費ローン」が若者の背中に重くのしかかっています。700億円近い財政調整基金の一部を「奨学基金」として、高校生、大学生のための県独自の無利子の奨学金を創設します。

### 安心できる地域を



### 「ケア・ビレッジ」計画

3割以上が空室となっている県営団地をリニューアルし、クリニックやデイサービス、小規模保育など福祉ケアの機能も誘致して、「ケア・ビレッジ」として再生させます。

### 貧困・虐待の連鎖を断つ

「ケア・ビレッジ」の入居は、低所得者・母子家庭・独居高齢者などを優先し、市やNPOとも連携して、生活支援事業を開始します。また、県が保有する施設の児童擁護施設などへの転用を進めます。

### エネルギーの 自給自足で安心を

太陽光、風力、バイオマスなどの自然エネルギーを普及させ、大規模停電にも強く、原発に頼らない安心の地域をつくります。



### 三浦半島の ブランド化

### 「エコ・ビレッジ」計画

湘南国際村をリニューアルし、食環境を楽しみながら学び、農的くらしを体験できる滞在型施設「エコ・ビレッジ」を設けます。

### ゆたかな食材で 収入もゆたかに

独自の三浦半島版エコ認証で農産物のブランド力を高め、また、市場に出回らない地魚を流通する仕組みを作り、廃棄量を減らし農業収入・漁業収入の向上をはかります。

### 循環する食農システム

民間事業者や横須賀市と連携し、生ゴミから堆肥を製造し、地域の有機農家等に安価に提供する循環システムをつくります。また、ゴミ処理の広域化も支援します。